

令和5年度 認定こども園自己評価結果報告書

1. 本園の教育・保育目標

子どもの健全な心身の発達を図りつつ生涯にわたる人間形成の基礎を培うため、生活や様々な経験を通して生きる力の基礎を育むことを目標にする。

教育の目標

- ◎人の話を聴く力を育てる
- ◎集中力を身につける
- ◎ルールを理解し守る力を育てる
- ◎良い人間関係をつくる力を育てる
- ◎五感を使い感じ取る力を育てる

保育の目標

- ◎愛されていると実感し意欲的に生きていく力を育てる(養護)
- ◎よく食べて、よく遊び、よく眠る(健康)
- ◎命あるものすべてを大切に思い、自分も大切に子ども(人間関係)
- ◎身近な環境や自然とのかかわりの中で、自分で考え行動できる力を育てる(環境)
- ◎人の話をよく聞き、自分の考えを話し、伝え合う喜びを味わう(言葉)
- ◎心の動きを自分なりに表現する豊かな心を育てる(表現)

2. 令和5年度の園全体のテーマ

「つながりから生まれる発見は宝物
それを自信と個性に育てよう」

春、園庭のあちこちに花が咲き、植物が大きく成長する時期。女の子たちは散った花びらを集め、ままごとや色水遊びを楽しみ、男の子はその傍らで虫探し。プランターを持ち上げたり動かしてはダンゴムシやヤスデ、ナメクジや幼虫を見つけて歓声をあげています。同じ目的を持った仲間とあれこれ言葉を交わしながら遊びを展開、春夏秋冬、園に来ると友だちや先生がいて毎日、ワクワク、ドキドキする発見や驚きがあり、そこから多くの学びや喜びを感じます。人や自然とのつながり、共生、自分はここにいていいんだと思える安心感が自信になり、興味の対象が個性へと。若竹保育園の風土が生きる力を育み笑顔の子どもを育てていきます。

3. 目標・計画の達成及び取り組み状況

保育内容の共通認識	乳児保育 ・育児担当の導入 ・一人ひとりの子どもの発達をその子どもの状況に合わせて援助する。 ・食事・排泄・着脱(決まった大人が決まった子どもの世話) ・愛着関係 幼児保育 ・異年齢保育(相手を思いやる気持ち。尊敬やあこがれ) ・遊びや生活を通しての学び。主役は子ども。(体験型テーマ保育)
保育教諭の資質向上	専門性をより深めるため研修の充実・参加 (月1回心理士による巡回・勉強会) 専門書を読むことで自己研鑽 目標の設定(月案・週案・個別記録など)振り返り
保護者に対する支援	子どもの成長の喜びを共有

	(連絡ノートの活用・保育参加・個人懇談・行事への参加) 保育内容の説明(ドキュメンテーションの掲示など) 子育てに関する相談・援助 保護者への個別支援
地域子育て支援	保育所機能の開放(マイ保育園・園庭開放・一時預り事業) 関係機関との連携 情報提供
健康及び安全	健康 <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活習慣を身につける ・運動会前に尿検査実施(3・4・5歳) ・健康診断の実施(内科(年2回)・眼科・歯科・聴力検査・視力検査) 安全 <ul style="list-style-type: none"> ・災害への備え 安全計画作成・見直し ・日常から保育者の指示に耳を傾け緊急の場合は慌てずに行動する。 ・避難訓練・総合防災訓練・防犯訓練・交通安全教室

4. 認定こども園の総合的な評価結果

新型コロナウイルス感染症が5月、5類に分類されたことでまた日常が戻ってきた一年でした。就学前の5歳児だけは経験不足にならないよう努めて行事を計画してきましたが、新型コロナが終息したことで今まで密になることを避けてきた行事をコロナ前に戻し全体で集まる機会を増やしました。3、4歳児も一緒に参加し同じ経験をすることで、クラスの話題も広がり保育も深まったように思います。春の運動会では一切入場制限を無くし、親子競技も復活、保護者の交流も兼ねた玉入れでクラスの団結もはかれました。7月の幼児クラスの保育参加、プール遊び、デイキャンプでは近隣のスーパーマーケットに食材の買い出しにも行きました。そんな中、秋の園外保育については職員で話し合いを重ね、3歳児がバスに乗って遠くまで出掛け、体力にも差がある4、5歳児と同じように一日を過ごすのは無理があるのではと結論を出し、お弁当を持ってのお歩き散歩に変更しました。当たり前と思っていたことを見直すという姿勢はコロナ禍で身についた唯一の利点だと言えます。

その後の発表会は幼児、乳児を別の日のままに、お餅つきにはコロナ前のように5歳児のお父さんにお手伝いを頼み活気ある行事になりました。知り合いの大学生がサンタさんに扮してのクリスマス会など、園内にとどまらず行事に協力して下さる方がいる事も子どもたちには大切な経験だと思います。卒園式も運動会と同じように参列して下さる方の入場制限を無くしました。卒園証書授与の後、以前のように直接お父さんやお母さんに証書を手渡す場面は感動的なもので喜んでくれました。保護者によるクラス単位での茶話会が出来たのもコロナの心配が軽減されたからです。行事の事ばかりではなく職員がマスクの着用をやめたことで心配されていた乳児の離乳食時のモグモグやカミカミを実際見せてあげたり言葉の獲得がスムーズになる、職員の表情が見え子どもとの距離感、信頼も増したと思います。

5. 今後の取り組むべき課題

保育内容の充実	異年齢保育をさらに充実させ、保護者の理解を深める。 体験型テーマ保育を充実させ、主体的・対話的な深い学びを更に充実させる。 認定こども園としての役割を理解し1号認定の子どもにも等しく教育・保育の保障をする。 評価・反省を繰り返す中で、子どもに必要な環境、健やかな成長のための保育を目指す。
小学校への連携	年長児やその保護者が安心して期待を持って進学出来るような取り組みを行う。 地域の小学校の行事や見学会に参加する。 進学する小学校の先生が子どもの様子を見に来る。 また、電話での聞き取りに対応する。 気になる子の引継ぎを密にする。
子育て支援の取り組み	特別な支援の必要な子ども(外国籍の子どもも含む)に対し、適切な指導や援助、関わりが持てるようにする。